



Title	1960年1月の安保条約改定時の朝鮮半島有事の際の戦闘作戦行動に関する「密約」に係る調査関連文書No.4( 120   外務省外交史料館レファレンス番号 : H222090 )
Author(s)	-
Citation	平成22年度外交記録公開(3)No.5   公開日 : 平成22年12月22日   外務省外交史料館管理番号 : 2010-6440   CD・DVD番号 : H22-013
Issue Date	
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/43880">http://hdl.handle.net/20.500.12000/43880</a>
Rights	外務省外交史料館所蔵資料



120

米大使と参議院の件 (沖縄)  
米大使  
参議院  
米大使  
参議院  
米大使  
参議院  
米大使  
参議院  
米大使  
参議院

秘録

米大使と参議院の件 (沖縄)  
43.11.12 米局長

11日他用を以て在京米大使と参議院の件、沖縄問題につき取次かた子と云ふ旨の電あり。

本庄一主席公選は聖憲候補当選確実のよしあり。今迄沖縄の事情は去つたかしくな

らる。大使一公選は日本側の要求にあり。その結果が

どうなるか取次方ながら。左も参議院を聖憲が執する事案の是非は同じことである

から米國にそのこと同じことである。本庄一「継続協定」は其の執行は火に油を注ぐ

所年の復讐の「西三洋」の巻もあり。沖縄の事情は去つたかしくなることか予見され。更に此等皆

半の復讐復讐といふ可能性を考へれば、いつか  
も放つては置けぬ。新内閣の参議院の件

であるか私見によれば、有事における核の対  
話、新内閣の参議院の件、自衛隊の使用、と云ふ事

なことで、話を始めるしかないと思ふが、その点  
新内閣の態度が、待てぬ事、どうか分らない

たに持する大使の私見あり。

大使一公選の席の口と云ふことには、なほ  
假に、そのことには、之をどうい

う文書がまとめるが大問題である。  
自らの負うことには、~~米大使の参議院の件~~

状況である限り、米大使の参議院の件は決断  
したは、~~米大使の参議院の件~~。次は、沖縄問題

米國內で説得するたべれば、日本の防衛努力に  
外務省

付加する材料が必ず必要である。単に防衛  
 姿勢と云うことではなく、現実に沖縄自衛の防衛  
 在り、何が引継ぐべきと云うことではないかと  
 意見に視得出来ていない。大塚等の協会  
 といふ観念的には同じ問題があったか、沖縄に  
 ついては、大塚等の協会とは規模の異なる問題  
 である。防衛が何者かの準備を始めている  
 だろうか？  
 本館—沖縄自衛の防衛と云うことは、在沖米軍の  
 規模と役割のうちには考慮した趣意である  
 か？ 其の意は、指揮官のありなし、防衛が  
 行上の研究はあつても、現実に自衛の内閣に  
 採り上げられていないことは、  
 大塚—沖縄にあり、自衛の準備は、  
 外務省

であると思ふ。  
 折尾様下、自衛が留任中の前提で申上  
 げられた、折内閣等皇族等と折尾と意見を  
 交換した上、2月に一時帰国し、両者のア  
 ー、折尾は秋の復讐防米及び之に先  
 立つ外務大臣防米を打ち合せたいと考へて  
 いる。  
 先般米隊会 Armed Services Committee の古藤の  
 事務局の者が来り、折尾を区別して在  
 沖基地を確保するのせむ協会、70年後は  
 1年の予定で、折尾から土に打たなければなら  
 ないとの意を述べたのは、不意であるから困ると  
 云う意見を述べたかと、折内閣あり、折尾は  
 是れを折尾の問題を考へたことは、折尾が  
 外務省

本誌—先日—新聞記者より、同様の質問を蒙  
け、自らは 安海等語は 確素 正しく、半國は

平和條約上の 権利に 基いて 沖尾に 設けら  
れる、と云ふより 状況は 多少 異なる、と云

ふ。又、或程 Amundsen Committee は  
此の條 兩年に 亘る。